



平成28年証券アナリスト第1次試験（春試験）

解答速報！

2016/5/11 現在

【証券分析とポートフォリオ・マネジメント】

第1問（15点）

問1 B 問2 B 問3 D 問4 B 問5 A 問6 D 問7 D 問8 A
問9 C 問10 B 問11 A 問12 D 問13 C 問14 D 問15 D

第2問（30点）

I

問1 D 問2 B 問3 A 問4 C 問5 B 問6 A 問7 B 問8 C

II

問1 D 問2 B 問3 E 問4 E

III

問1 C 問2 D 問3 A

第3問（30点）

I

問1 C 問2 E 問3 A 問4 C 問5 B 問6 C 問7 A

II

問1 D 問2 C 問3 B 問4 A

III

問1 B 問2 D 問3 C 問4 B

第4問（35点）

I

問1 B 問2 C 問3 C 問4 A 問5 A 問6 D 問7 C

II

問1 B 問2 B 問3 D 問4 A 問5 A

III

問1 B 問2 D 問3 C 問4 E 問5 B 問6 D

この解答速報の著作権は、TAC（株）のものであり、無断転載・転用を禁じます。

TAC

第5問（30点）

I

問1 B 問2 C 問3 D 問4 A 問5 E 問6 A

II

問1 B 問2 D 問3 D 問4 E 問5 C

III

問1 C 問2 C 問3 B 問4 B

第6問(40点)

I

問1 A 問2 B 問3 D 問4 E

II

問1 C 問2 D 問3 A 問4 C 問5 A

III

問1 C 問2 D 問3 B 問4 A 問5 C

IV

問1 D 問2 E 問3 C 問4 B 問5 A 問6 E

（注）

第2問 I

問1 D 平成27年7月24日に開催された景気動向指数研究会の議論を踏まえた景気動向指数の第11次改定により、先行系列のうち長短金利差はマネースtock（M2）（前年同月比）に変更されている（<http://www.esri.cao.go.jp/jp/stat/di/150724siryou3-1.pdf>）。協会通信テキスト（2015年版）に従い正解としたが、現時点でこの選択肢も正しくない。

この解答速報の著作権は、TAC（株）に帰属するものであり、無断転載・転用を禁じます。

なお、この解答速報は、TAC 独自の見解に基づくものであり、正解であることを保証するものではありません。また、後日情報を更新する場合がありますので、ご質問などの受付はいたしかねます。

この解答速報の著作権は、TAC（株）のものであり、無断転載・転用を禁じます。



2016 証券アナリスト 1 次試験（春）

「証券分析とポートフォリオ・マネジメント」

過去 4 回の問題数・配点は以下の通り。

平成 26 年（秋）～平成 28 年（春）

問 題	分 野	平成 26 年 (秋)	平成 27 年 (春)	平成 27 年 (秋)	平成 28 年 (春)
第 1 問	日本の証券市場	15 問 (15 点)	15 問 (15 点)	15 問 (15 点)	15 問 (15 点)
第 2 問	企業のファンダメンタル分析	15 問 (30 点)	16 問 (30 点)	15 問 (30 点)	15 問 (30 点)
第 3 問	株式分析	15 問 (30 点)	15 問 (30 点)	15 問 (30 点)	15 問 (30 点)
第 4 問	債券分析	18 問 (35 点)	18 問 (35 点)	18 問 (35 点)	18 問 (35 点)
第 5 問	デリバティブ分析	15 問 (30 点)	15 問 (30 点)	15 問 (30 点)	15 問 (30 点)
第 6 問	ポートフォリオ・マネジメント	20 問 (40 点)	20 問 (40 点)	20 問 (40 点)	20 問 (40 点)
合 計		98 問 (180 点)	99 問 (180 点)	98 問 (180 点)	98 問 (180 点)

今回の特徴は第 6 問：「ポートフォリオ・マネジメント」にポツリポツリ新奇の問題があって、その他が何だかやけに易しいといったところ。全体としてはやや易化した印象だ。相変わらず、あらゆる分野から一通り万遍なく出題されている。

第 6 問はいつものパターンで解こうとすると面食らうような、一捻り仕掛けられた問題が目についた。いずれもちょっとした応用力というか想像力を働かせると案外すんなり解ける問題なのだが、限られた試験時間の中でこれはなかなか難しい。連続複利を装った計算（I・問 2）は問題に数値が与えられていて、この数値を使えば関数電卓はもちろん、連続複利の概念すら不要で、単に「時間価値」の考え方で処理できるように工夫されている。この工夫がクセモノで「時間価値」について理解していれば楽勝、でないと手が付けられない。とは言っても 1 次レベルの場合、パターン化された問題が大半なので数少ない目新しい問題や面倒な問題でくじっても、過去問等を通じて慣れ切った問題を確実にモノにすれば合格ラインには到達する。やはり正誤問題・計算問題とも、過去に繰り返し出題されている「問題のパターン」にいち早く慣れることが重要なようだ。

なお、第 1 問：「日本の証券市場」は、回によって常識レベルで正解できるような問題が多いときと、協会通信テキストを詳細に読み込まないと正解にたどり着けないような問題が多いときがある。今回はどうやら後者で、この意味で第 1 問の「はずれ（あたり？）の回」だったようだ。

以上